

同窓会報

創刊号
57.11.29

豊橋技術科学大学



同窓会の発足をよろこぶ

学長 榊 米一郎



昭和57年3月に第1回の工学修士として本学を巣立って行った卒業生の中の有志からの呼び掛けにより、同窓会が発足することになった。設立総会は都合で本年の秋になるそうだが、技科大卒業生らしい手まわりのよさである。私として心からのお祝

いを申し上げたい。

私自身の出身校はいずれも古い歴史を持つところばかりで卒業の時にすでにがっちりした同窓会の組織が出来上っていたので、気をもむ必要は少しもなかったが、第1回の卒業生を出してから10年近く経ってから同窓会を発足させた名大工学部の場合は、大変な苦労があったようである。名大工学部の発足は昭和15年4月、第1回の卒業生は戦時中の学年短縮で昭和17年9月、その後戦争ははげしくなる一方、昭和20年の敗戦、それに続く戦後の混乱である。同窓会の発足どころではない大変な時代だったから止むを得ないことである。

昭和15年からずっと名大工学部に世話になっていた私は、昭和49年4月に豊田高専の校長に転出した。着任して間もなく気のついた事は同窓会がないことである。昭和43年に第1回の卒業生を出しながら、こんな事になっていたのは、大学紛争の影響で高専にもそれが波及したからである。高専の場合は卒業生がそのまま学校に残るということは全くないが、幸いトヨタ自工のお膝元なので近くに古い卒業生が可成りいたのでそれぞれ忙しい中だが、呼び掛けに応じて呉れた。高専の学生数は一学内当り160名という少数だし、それまでの全卒業生約1,000名のうち70%程度は東海地方に居るので、情報は集めやすかったが、それでも名簿らしいものが発行できるようになるには、およそ1年半かかった。そして昭和50年の暮に同窓会発足の運びとなった。翌年の昭和51年10月に私は豊橋へ来てしまったので、その後の委しい事は知らないが、今では薄い冊子ながら同窓会誌も発行され、年一度総会を開いて旧交をあたためている。

私の関係した名大工学部、豊田高専のいずれを見ても、はじめからやっておけば何の苦労もなかったはずなのが、色々の事情で時期が遅れたばかりに上述のようなことになったのである。豊橋技科大はこんな徹をふまないようにしてもらいたいと私としてひそかに考えていた。卒業生中の有志のおかげでスムーズにすべり出したことを喜びたい。

同窓会なんて一体何の役に立つのかと言うことをここで開き直って議論をすることは馬鹿気ている。しかし私自身の今までをふり返って見ると、かつての同級生、同門の先輩や後輩のおかげで思いも掛けなかったことが何の抵抗もなくスムーズにやれたという思い出が随分と沢山残っている。こんなことは私に限らず誰しも経験することであって、人の世で“出会い程大切なものはない”と語る人の如何に多いかを思い浮べてもらえば、わかることであろう。しかし将来そんなご利益(ごりやく)があるから同窓会は大切なのだと言う味気ない話ではない。それよりはもっと楽しいものにするをまず考えるべきだと思う。

私のような年齢になると昔のアルバムは何物にも変え難い程大切なものになる。撮ったばかりの写真はつまらないが、それを10年、20年、さらに数十年経って眺めると、若かりし日の思い出が一度によみがえり、何とも言えないさわやかな気分になる。同窓会にもこれと似たような効果があることはたしかで、卒業生諸君にそうした場が提供できればよい。しかしそれを続けているうちに振り返って見ると知らず知らずの間に思わぬことでお互に助け合っている。同窓会はそこまで必ず発展して行くものなのである。

(57. 9. 12)

あいさつ

同窓会会長 鈴木寛太郎

豊橋技術科学大学の修了生。卒業生を一致団結する同窓会がこの3月発足、わずか半年を過ぎたばかりのきょうこのごろですが会員の皆様には益々御健勝の事とお察し申し上げます。

会長という大役を引き受けて何をやってよいのかわからず、また社会に仲間入りして日々とまどっている私です。技科大の創設時のように我々の同窓会もようやくスタートラインにつくことができました。そして今ここに会員の皆様の御協力により同窓会会報及び名簿が発行できることとなりました（一部名簿作成が不備で誠に残念ですが……）。原稿をお寄せいただいた方には御多忙中にもかかわらず御執筆いただきまして誠にありがとうございました。

さて、ここでこれからの同窓会の活動予定を簡単に御紹介申し上げます。

82年度行事予定

1. 同窓会会報及び名簿発行

1. 昭和58年度同窓会入会案内

以上、2点を中心に進めて行く予定でございます。また来年度は秋ごろ総会を実施するつもりでございますが、この時は会員の皆様の御協力をぜひお願い申し上げます。これは大学で行なわれる大学祭と時を同じくして開催するつもりでございます。夜中迄激論をたたかわした級友と、勝敗に涙したクラブ仲間と、又、かわいい後輩達と顔を合わせ、互いの成長ぶりを確認し合う良い機会にしてほしいと思います。そしてそのころには卒業時に植えた“サクラ”の木も天伯ヶ原の大地に根を堂々とはっていることでしょう。

我々役員一同、いたらない点が多々あるかとぞんじますが同窓会発展の為全力投球するつもりです。ですので会員の皆様の御協力、また、御意見・御要望がございましたら何でも気軽に言って下さい。それによって同窓会も益々活発となり、同窓会同志の和がどんどん広がっていくものと信じています。

最後に。同窓会にとって一番大切な会員相互の親睦と母校との連絡など同窓会活動の基となる会員名簿の御勤務先、御住所等の変更の都度必ず御連絡頂きたいと思っております。今回の名簿作成には誤りや不備なところが多数見受けられることと思っておりますが各位の御叱正により今後よりよいものになりたいと思っております。会報・総会の案内などの発送にも直ちに利用されますので、御勤務先、御住所等の変更の都度御連絡を再度お願い致します。名簿は正確さが生命ですのでよろしく御協力の程お願い致し、皆様の御健康と御活躍を祈りつつ、あいさつにかえたいと思っております。

(1982. 7. 31)

がんばってます

—同窓生各地のたより—

～秋の京都より～

昭和57年 エネルギー工学専攻修了

村山 善美



「原稿締切りは10月だから…」
という言葉に安心しきって、ふ
と気づいたら今日はもう10月20
日、職場に原稿催促の電話が掛
かってきました。朝晩はめっき
り涼しく……というより肌寒さ
を感じるこの頃ここ京都は秋の
まっ只中、いつの間にか年月が

過ぎてイッチョマエの社会人になった気分である自
分、ほんとに月日の経つのは早いものです。

就職先は、島津製作所、各種分析機器、医療機器、
航空機のメーター等の多品種少量生産を特徴とする
精密機器メーカーです。京都という古都に立地して
いることもあり長年にわたって地道な企業活動を続
けてきたせいか、社風は比較的自由でのんびりムー
ド、居心地はまァまァというところ…。

配属されたところは、電子線マイクロアナライザ
ーといって物質の表面を分析する装置の設計を行な
っているところ。入社間もない頃、この種の装置と
は切っても切れない関係にある電子回路、マイコン、
わけのわからぬ分析法のこと等々、見知らぬ世界が
一挙に目の前に拡がり、自分の知識の狭さ、浅さを
痛感させられました。しかし、慣れとはおそろしい
もの、今となってはこうしたことがあたりまえとな
って、修論の完成に夢中になっていたあの頃がもう
遠い昔の出来事のように思われてくるのです。

さて、職場の方では、サークル活動も割と盛んで、
私は学生時代にひき続いて映画サークルに入ってい
ます。仕事に追われる毎日の中で自分を見失わない
ためにも、月一回職場の仲間と出かけるこの時間
はとても貴重に思われます。また、デスクワークの
多い仕事柄、どうしても運動不足になりがち、そこ
で夏の終わりごろから、寮の友人と朝のジョギング

をはじめました。

秋たけなわ……仕事に、スポーツに、読書に、芸
術に心身充実させたい季節、同時に、エンジニアと
してこれからどう生きていくのかと、いろいろ思索
にふける季節でもあります。さァ明日の朝もガンバ
ッテ走るンダ！ ちなみに明日21日は国際反戦デー、
仲間とともに反戦、平和を求めるデモ行進に私も参
加するつもりです。

それでは、朝寝坊しないようにこの辺で—

そんな大学あるの？

昭和57年 エネルギー工学専攻修了

高橋 周男



私が初めて清水建設を知った
のは去年の5月でした。超高層
ビル、原子力プラント、特殊生
産工場など多様化し、複雑化す
る今日の建設業が、幅広い分野
の技術力を必要としているとい
うことを知ったことが入社の際
機でした。しかし、どういう仕

事をやるのか全くわからず、期待と大きな不安をも
って入社しました。機材部、相模機材センター第2
機材課が私の職場です。機材部の仕事は、建設機械
の整備と現場への供給であり、相模機材センターは
整備工場です。私の仕事は、新しく購入した機械の
仕様書を書いたり、ペンキ塗りなどの作業手順書を
作成したりする事務的な仕事が大部分を占めており、
技術的な仕事としては、部材をスケッチしてその図
面を書くことぐらいです。正直いって仕事は全々お
もしろくありません……。

社会と学生の違いを感じる事、それは給料をもら
い自由に使えることです。入社し2ヶ月後に、車を
買い、パソコンを買い、生命保険に入り、英会話を
始め、学生時代からのローンを払い、酒を飲んでも
まだ金が残ります。いっしょに入社した職場の仲間
とよく下北沢で酒を飲みますが豊橋に比べ安い店が

多く、これが唯一の楽しみですが、最近、残業が多く寮と会社を往復する毎日を送っています。

私は、通勤に小田急線を利用していますが、いつも思うことは、きれいな人が多いことです。豊橋に住んでいたせいかな？と思ひ、職場の仲間に聞いてみたところ、私と同意見でした。しかし最近、慣れてきたことと、仕事の疲れのために、電車の中ではそんなことには気をとられず寝ております。

会社の人たちに出身大学を聞かれて答えると、「豊橋技術科学大学？そんな大学があるの？」とよく言われ、知名度の低さを痛感しますが、これも第一期生の宿命、努力し、自分の力を十分発揮していくことが、一期生の義務だと思ひ頑張っています。

東南アジア一人歩き

光 建棟

昭和55年 建設工学課程卒業

正田 要一



6月2日から12日の11日間、一人でバンコク(タイ)、コロンボ(スリランカ)、ボンベイ(インド)、シンガポール(シンガポール)と駆け足で旅をしました。それらの都市で感じた事を書いてみようと思います。

日本製品。車など、大きな顔で動きまわるのでとりわけ目立つのであるが、とにかく多い。バンコク、では8割方は日本車である。車は大体中古車であるが、よく手入れしてある。コロンボでは6割方がやはり日本車。車は、中古車の中古車という感じで、中には走っているのが奇跡としかいいようのない車もある。シンガポールも6割方日本車だ。この車は日本と同じで新車が多い。逆にボンベイでは全く日本車を見かけなかった。インドは国内に自動車産業をもっている為であろうし、日本車は高級車の扱いらしく、タクシーの運転手はしきりにわが日本車を誉めちぎっていた。電気製品もボンベイを除けば、おなじみさんの看板と製品をあちこちで見かけた。日本車や日本製品を見ると何となく安心感を覚えるのは不思議な気がしました。

暮し向き。シンガポールは先進国に違いない。空港の美しさ。町に到るハイウェイの美しさ。人々の服装、何ら日本と違わない。さすが、アジア三大金融市場の一つと思わせる。皆の生活水準が豊かなレ

ベルにあると思った。逆に、バンコクは発展途上国または発展希望国といえる。メナム川の水や岸辺の生活者を見たり、空港から中近東へ出稼ぎに行く人達の列を見るにつけ、その観は強かった。コロンボとボンベイは何と表現してよいか判らない。もちろん先進国ではないと断定できる。コロンボを車で一日走りまわると、体中が埃で真黒になる。服もひじょうに簡単だ。しかしスリランカに、先進国と呼ばれる国々の生活様式を導入して、果してそれが適合するものであろうか。また、彼達がそれを喜ぶであらうか。どうも僕は釈然としない。ボンベイは変わった街である。日本でいえば大阪みたいな商都らしいが、近代的高層ビルがあるかと思えば、その隣りは乞食部落がある。街を歩く人と、一流ホテルに入ってくる人と、見ると明らかに違いがわかるのである。シンガポールが日本と同様にそうした見分けがつかないのに比べると、インドは貧富の差がかなりあると思われた。

親日度。これはコロンボが圧倒的によろしい。政府間同士もそうであるが、日本の皇室の力も相当なもので、植物園では係員が「これはあなたの国の美智子妃殿下が贈ってくれた蘭です」などと大変自慢気に見せてくれた。空港で、パスポートを提示する際も「日本人か。それは素晴らしい。大いにスリランカを楽しんでくれ。」と係官が言うくらい。レストランでもご同様。日本人先輩諸氏の力が大である。逆にボンベイはそうは思えなかった。現政権がソ連寄りという頭があったせいかもしれないが、空港でパスポートを提示した際も「ジャップ」と言っているのが聞こえたり、免税店で同じことを頼んだのに、チンピラのような欧米人にはにこやかに応待し、僕のような紳士(?)の日本人にはつっけんどんな態度であった。

旅をしてみて感心するのは、英語の強さである。



どこの国でも通じるのである。その昔、大英帝国に日没なし、といったそうだが、イギリスのアジア政策、近年のアメリカのフロンティア・スピリット（軽装で1人旅のアメリカの若者をよく見た）には、全く感心させられた。日本人もこれからはかくあらねば、と強く思いました。

終わりに、この対照的な都市を教示下さった建設工学系紺野教授に心より感謝申し上げます、私の偏見に満ちた文を切り上げさせていただきます。

“挑戦的人間”

清水建設(株) 原子力部

昭和57年 建設工学専攻修了

谷口伸一郎



人間は、一生のうちには必ず何回かの大きな挫折感を味わう時があります。しかし、その時匙を投げずに、自分にとってあるいは周り（両親、友人、社会）にとって、より Progressive な考えを持ち続けられるだけの精神力と身体を養っておく必要が

あります。それを養うには、自分に合った方法を自分で見つけていくものでありましようが、現在、私の場合は多くの人と接することと、スポーツをやる時、汗が滴る程精一杯やることだと思っています。最近特に、精神的に逞しい人間になり何事にもチャレンジ精神を大切にしていこうと考えています。

学生時代には、得るものを得ておけばよかった。しかし、働き出すと受け身だけではだめです。仕事、人間関係をうまくやっていくためには、自分から他人に与えるものを持たねばならないことを感じています。私は、今までどちらかと言うと保守的人間でしたが、今述べたように仕事や人間関係をスムーズにしていくためにも、ここと思ったら自分の考えをはっきり述べたり、時には現状を斜めから見たり攻撃的立場にたつ必要があると思っています。

但し、その際1つだけ注意することがあります。私は、囲碁を少々やりますが、相手の石を攻める時にはまず自分の石の補強（身固め）を行なった後、勝負とみたら一気に襲いかかるのです。この補強とは、予めコツコツと積み重ねる影の努力ではないでしょうか。もし、その補強（努力）無しにして相手の石を攻めようものなら、たちまち逆襲され我城壁

は脆くも崩れ滅亡ということになりかねません。

我々の大学出身者が、社会で活躍しだすには少なくとも約10年はかかるではないでしょうか。後輩諸君は、学生時代じっくりと腰を落して、しっかりと攻撃のための身固めをして欲しいと思う。我々一期生は、我大学出身者の先道車である。やがて、後輩達と共に活躍するために、何事にも挑戦的人間でありたいものです。

無 料 宿 泊 所

昭和57年 生産システム工学専攻修了

江崎尚和



卒業からすでに半年以上が過ぎた。その間、数多くの卒業生が大学を訪れ、教務職員として豊橋に残った私の下宿をビジネスホテルか安旅館代わりに利用していった。その数は企業の夏休みシーズンにピークを迎え、多い時には1度に2、3人を取

容しなければならぬこともあった。来客の多いのは大歓迎である。それに、訪れる友人達1人1人が自分の就職した会社のことや新しい生活のこと等々、それこそひと晩中話し明かしても尽きないくらいの土産話をかかえてやって来る。当然のことながら人数が多ければ多い程それだけ話はずむというものである。しかし、残念なことに私の下宿は狭く、変則的な配置をとらない限り私を含めて2人寝るのがやっとである。しかもふとんは1組しかない。それでもふとんの上下を別々に使い、その上コタツふとんまで引っ張り出してザコ寝ということになるが、有難いことに今まで1度も苦情の出たことはない。

私の下宿を訪れる卒業生のほとんどは卒業後の挨拶と報告のために大学を訪問するのが目的である。しかし中には、何の目的もなくただ遊びに来るだけというものもある。ある友人は長い休暇をもて余したらしく、何の連絡もなしにある日突然フラッと現われ、3日間も私の下宿に居候を決め込んだ。さすがに3日目には気が引けたのか、どこからか酒を買って持ってきた。またある友人は、豊橋に残っていた彼女に会うために私の下宿を訪れる。夜遅くまで彼女とデートし、一応その夜は私の下宿に泊まるのであるが、次の朝になるとまたさっさとデートに出

かけていってしまう。もうこうなると私の下宿は無料宿泊所以外の何ものでもない。

現在は訪問客の数も減ったが、それでも月平均2回はふとん持参で遊びにくる友や、私の整理ダンスの一部を占領しバスタオルや洗面道具一式を置いている常連客がいる。秋も深まり、ザコ寝するには少し寒い季節となってきた。この冬はふとんをもう1組買いそろえねばなるまい。



天伯台地の雲雀君へ

昭和57年 電気・電子工学専攻修了

中川重康

天伯の風と香りが懐しく思い出されるこのごろですが、如何お過しでしょうか。そちらでは、もうそろそろスイカも熟れている頃でしょうか。私は舞鶴高専という良き青春時代を過した所に赴任したため、初めから何の異和感もなく仕事に着くことができました。5年間の高専生活を思い出し、当時と変わらぬ教官、職員の方々の暖かい御指導のおかげで毎日楽しく仕事に励んでおります。主な仕事は、実験指導3クラス、卒業研究指導3名、サッカー部、ワンダーフォーゲル部顧問といったところです。

顧問という仕事では、とまどうことがしばしばです。サッカー部と大阪府立高専へ試合に行った時など、二年生が試合中に転倒し骨折しました。すぐ病院へ連れて行ったものの慣れないことでおそろしました。また、先日はワンダーフォーゲル部と北アルプスへ行きました。引率としてついていったのですが、登山の経験に乏しい私はサッカー部の事もあまり不安で仕方ありませんでした。

ニッカズボンに山シャツという例の山男のスタイルを借物でまにあわせ、部員の前では笑顔を絶やさず必死で歩いたのです。燕岳から大天井岳、槍ヶ岳——いわゆる表銀座と呼ばれるこのコースは、最も一般的な北アルプスの登山道です。一日で1400mもの高度を登りました。小雨が降り、カッパを着ての歩行は汗と雨で体中が疲れきりました。夜のテントでは“何でこんなにして山に登ってきたんや？”と学生がわけのわからない文句を言っているようでした。

た。大天井岳から槍ヶ岳のコースでは、雨も降らず周囲の山々が素晴らしい景観を作り出してくれました。槍ヶ岳の頂上で、夕焼けをバックに全員で記念写真を撮ったり、ゆっくりと北アルプスのパノラマを満喫したりしました。やっと、余裕が全員に出てきたようでした。残念ながら、悪天候のため予定コースの半分を残したまま上高地へ降りました。二名が体調を崩しただけで全員無事に下山でき、私はホッと一息という所でした。これからもずっと、山を降りるたびにこうして一息つくことと思います。それでは、近況まで。ごきげんよう。

花も実もある男の職場!!

昭昭和57年 電気・電子工学課程卒業

射場達也

「何かおもしろいことないけ…」 「先月なんかワシは93発も残業しばいてこましたった。おもしろいやろ…。」

冒頭から非常に上品な言葉使いで申し分けないがこれは某社の昼休みに芝生にたむろする新入社員の会話である。とにかく忙しいのである。何故、こんなに忙しいのかというのは企業秘密であるが抽象的な表現をするならば、雲雀ヶ丘に吹きすさぶ風よりも少し強い不景気風に吹き飛ばされそうな弱体企業が資本力にものを言わせる巨大企業に一失報いるためである。そのために右も左もわからない、いやそれぐらいはわかっているもTTLのピン番が左下から左回りに順番がつけられていることや右下のピンがアースであるということすら知らない猫の手ほどの役にも立たないような新入社員（私のこと）までが大忙しとなるのである。

しかしながら猫の手に与えられるような仕事は、自分の考えを織り込んだり、仕事の意義とかやりがいとかといったものとは無縁のもので、ただひたすらに黙々と処理することだけが要求されるものである。従って、大いなる疲労と時間を拘束される苦痛だけの欲求不満の毎日を過ごしているわけである。

このようなモーレツサラリーマンの唯一の楽しみは残業時間をひたすらに積み重ねて残業手当を皮算用することである。

かくして入社式の日には胸をふくらませた、休日と勤務が終わったあとの自由な時間、そしてオフィスルンルンといった夢と希望は脆くも崩れ去ってしま

った。

とは言うものの、徐々に知識を蓄え仕事だけが生きがいと言えるような純情技術者になろうと決意を新たにす今日此頃でもある。

H.S.さんに愛を込めて。

Let's Begin!!

昭和57年 情報工学専攻修了
佐藤 貢

天伯の地を離れてもう三ヶ月が過ぎ、会社生活にも慣れてきた。私は日立製作所に入社し、茨城県勝田市にある那珂工場に配属された。この工場は、電子顕微鏡を始めとする理化学機器、及び医用機器、工業用計測システム等を製造している。9月までは現場体験実習ということで、機械、組立現場での実習である。

機械現場では、私は主に旋盤による製品加工を行っており、大型材料の加工で削る方向を間違え大騒ぎになったこともあった。しかし、ここでは実習記念として、何か自分の好きなものを加工してもよいということなので、私は置時計（デジタル）のケースを作成した。といっても、私は図面を書くだけで、あとは現場のプロにほとんど作ってもらったのだが、材料も適当な残材を捜してもらい、さすがにずっしりと重い見事なケースができあがった。

さて、入社して二ヶ月間は定時（夕方5時）に寮に帰っていたため、時間を持余すことが多かったので、ギターアンサンブル（現部員14名）を結成して週三回程度の練習をしたり、テニス部に入って退社後にテニスをしたりしていた。しかし、そのうち社内英会話講座、消防隊訓練等が定時以後のフリータイムを食い潰し始めた。おまけに、水戸市にある英会話学校にも週二回通うことにしたため、また自分の時間が少なくなる。そして、最後のだめ押しは、新入寮生企画のビール祭りの準備である。従って、

今はテニスもギターも思うようにできない。

仕事を離れて何かを思い切りできるのは、実習期間の今だけだという。この時期に精神・体力・環境の整備をしておきたいと思い、いろいろやってはいるものの、実際にはしようと思うことの半分もできないジレンマとの戦いである。しかし、少なくとも「今できることはすぐ実行しなければ、結局何もできない」という考え方が私に定着し始めたように思える。

社会人となった今、特に感じていることは、自分の能力に応じたプランニングの重要さである。学生時代には、その気になれば比較的自由に自分の時間を持てた。しかし、今は限られた時間を有効に使えない限り、アクティブな行動と健康とは両立しないであろう。幸にして、私のまわりには、その両立に成功している人が何人かいる。不器用な私は、まず彼らの真似から始めた。成功する自信は全くないが、まずは行動である。 Let's Begin!

ある訪問者

昭和57年 情報工学専攻修了
名倉道長

ある日曜日、私は久しぶりに愛犬を連れて散歩に出かけました。家を出て間もなく私は家を探している1人の小柄な男を見つけました。彼も私に気が付くと近づいて来て地図の書いてある紙を指さしてこの家はどこかと尋ねたのです。その時分かったのですが、彼は香港人で、しかも探していたのは私の家だったのです。さて、私はもちろん家族にも香港人に知り合いなどいません。そして、もう1つの不安が私の脳裏を横切りました。それは言葉の問題です。自慢ではないのですが、学生時代に英語でかなり苦しめられた経験があります。やはり彼も日本語はおろか英語もあまり話せないということです。とにかく家へ連れて行き用件を聞くことにしました。カタコトの日本語と英語、身ぶり手ぶりそして筆談という奇妙な会話(?)が始まりました。彼はアメリカの貨物船の *chief steward* をしており、食料の買い出しに来たそうです。私の家は養鶏場をしているのでそのことをどこかで聞いて、はるばる豊橋港から7~8kmの道を歩いて来たそうです。


まず、彼は鶏肉を買いたいと言うのです。私の家は採卵が主なので肉など売ることはできないと言っ

ても目の前の鶏を指さしてこいつでいいと言って納得しません。しかたなしに、廃鶏と呼ばれる卵を産まなくなった鶏を売ることにしました。この鶏は肉がかたく一般にはひき肉にされます。さすがに彼はいやな顔をしましたが安くすると言うとしぶしぶ承知し20羽ほど買うことになりました。

次に卵です。卵は途中のスーパーで安く売られているのを見たらしく彼の希望する値段と我々の希望する値段と合いません。時としてスーパーなどでは我々業者の卸し値より安く売ることがあり非常に迷惑しています。結局、喫茶店のモーニングサービスに付くような小さい卵を18ダース買うことになりました。ところで、鶏20羽と卵18ダースといえば重さにして50kg以上あります。歩いて来た彼がとうてい持って帰ることはできません。結局、商品(?)とともに彼を港までおくことになりました。この商談が成立するまで約1時間あの奇妙な会話が続いたわけです。彼が帰ってホッとすると同時に急に疲れが出ました。もう二度とこのような経験はしたくありません。

私の近況

昭和57年 物質工学専攻修了
臺場 信一



待望の同窓会誌が創刊されて、うれしく思います。我が校の繁栄のためにも長く続けてほしいと思います。さて、私の近況のことですが……

私はこの4月、小西六写真工業(株)に就職しました。皆さんよく御存知の、カラーフィルム・プリントのサクラカラー、カメラのコニカ、複写機のU-Bi X、オーディオテープのマグナックスなどを製造と販売している会社です。

四月の半分は社内研修でした。グループ単位での行動でした。前半は講義形式だったのですが、後半八王子市内でのオリエンテーリングや今までの知識による会社案内の作成など、新人が会社に馴染むようにとするものです。実際、研修が終わった頃には大学で研究していたのが数ヶ月前のように感じられました。研修が終わると配属の発表がありました。私は研究所でしたが、同じグループの人達も秘書室、研

究所、札幌・名古屋の営業所など様々な職場に配属されました。この時に、一種の会社員としての宿命的なものをちょっぴり感じました。

研究所ではカラー感材に含まれる化合物の探索合成を一年間のテーマとして与えられました。大学では紙の上だけの化合物の研究でしたが、ここでは実際に自分で合成し、その特性を測定して分子設計を行おうとするものです。研究室の雰囲気は大学と同じく明るくて働き易い職場です。また、ある特定の職場に閉こもってしまいたくないので、バドミントン部に入り、学生時代と一味違ったクラブ活動にもがんばり、健康だけでなく人間関係でも豊かにするようにしています。

現在は研究所から出て実習期間中です。最初にフィルム販売(写真は平塚の七夕祭に於て)などを行っています。もっと広い目で会社を見ることができるといい機会を与えられたので、有効に活用したいと思います。

このように、近況を述べましたが、会社を利用した自分の向上を考えた思想を持ち、今後、働いて行きたいと思う。

研究者の卵一年目

昭和57年 物質工学専攻修了
奥山 徹

分子科学研究所は、分子レベルでの物理化学に関する最先端の研究を行っており、その研究の水準は世界のトップレベルにあります。私にとってまったく異なる分野の研究所での勤務は、多くの不安と希望を現在も与えつづけています。在学中より、研究職あるいは教育職を指向していた私にとって、官職は技官ながら研究を行なうための技官として採用され非常に幸いに思っています。

分子研の常勤スタッフは約70名ほどであり一人当りにかかる負荷は相当なもので、日・祭日以外はほとんど朝8時に出かけ、夜11時頃帰るという毎日を送っています。一日の勤務時間の大半は実験と実験装置の維持管理に費やされています。私が所属する研究グループは現在3名で研究を進めており、この3名でレーザー、超高真空実験装置や分析機器など30近い機械類の保守を行なっています。技官の第一の任務は、これらの装置類を常に最良の状態に保っておくことにあり、慢れない手つきで真空ポンプの

修理や電気回路の製作などを行なっています。その残りの時間を利用しては、自分の実験のための準備や基本的なデータの収集などを行なっています。こういった多忙な毎日のために、自分自身の勉強の時間がほとんどないことが現在の最大の悩みです。研究者の卵一年目であり、まだまだわからないことばかりですが、最近ようやく自分なりの自覚みたいなものが出来てきたように思っています。

編集後記

この第1回の同窓会誌が、会員諸氏に届く頃には皆コタツの中、もしくはストーブの近くに居られる冬日であろうと思います。みかんの皮をむきながら黄色くなった指でめくった会誌、いかがでした。まあまあのできだな。奴らにしたらこの程度。何なんだこれは？。様々な意見、感想が涌現したでしょう。あきらめにしろ、怒りにしろ何らかの感動を与える事ができたなら幸いである。ちょっと、そこの君！そう君ですよ。無感動に、みかんを口に運んでいる貴男（女）ですよ。何か感じとって下さいよ。みかんも大切かもしれないが、我々の、そう技科大出身の我々同志の会誌なのですよ。みかんはスーパーに売っているが、会誌はどこにも売っていないのですよ。完全限定版の非売品なのですよ。しかも第1号なのです。大切にして下さいネ、ね、Ne…。

ところで、話しはかわりますが、皆さん、仕事は順調ですか？バリバリ君でハリキっている人。少し登社拒否症の人。十人十色で、各人なりにマイペースで頑張っている事と思いますが、いかがでしょうか。およそ、どんな組織、団体でも複数の人間が集まる限り、3種類の人間に分類できるという。すなわち、居てもらわなければ困る人、居ても居なくてもかまわない人、居てもらっては困る人、である。どうせなら、自発能動的に職場で、地域で必要とされる人間になりましょう。みかんも自分がむいたのはおいしいが、他人のむいたみかんは何かしらまずいものである。ともかく、自分の人生、どう生

きようが勝手である。だが主役は自分なのだから、受身の人生ではなく、能動的な人生を開拓しようじゃありませんか！「破壊は一瞬、建設は死闘」の金言どおり、地道に努力し、自分の人生を築いていこう！苦難をいくつ乗り越えたかで、その人の人間としてのスケールが決まる。嫌な事も全て成長の発条にする心意気で楽しくやろう。

生意気な事を言ったが、みかんに始まりみかんに終わらせる為に、「皆さん、みかんの食べ過ぎに注意しましょう。」映画「未完の対局」は実によかった。致る所、未完成の会誌ではありますが、執筆者の方々、役員一同が、仕事の合間に創り上げたものですので、寛大な心で迎えて下さい。

